

副会頭が支部を訪問し管内企業・団体と意見交換

正副支部長・運営委員会議

各地域を代表する企業や団体で構成する支部運営委員の連絡会議を開催した。

東神戸支部（中島洋人支部長）には伊藤副会頭、中央支部（今津由雄支部長）には高田副会頭、西神戸支部（松田幸治支部長）には國井副会頭がそれぞれ参加し、各支部における取り組みや管内の景況感について意見交換を行った。

各地域の運営委員からは、自社を取り巻く状況について、仕入価格の上昇、人件費高騰によって収益は悪化しているが、消費者の低価格志向は強く、価格転嫁が困難な状況に

あるという意見が多数あった。

一方、イベントの再開による業績回復や、SNSの活用による若年層へのPR強化、フードロスやカーボンゼロの酒造りなどSDGs関連事業の取り組みを通じて、企業変革に挑戦している事例も紹介された。

各副会頭からは、「創意工夫をこらした事業変革」「若手経営者が中心となった活動」「異業種による事業連携」などを通じて、地域経済の活性化に取り組んでほしいと期待が寄せられた。



東神戸支部 (3月7日)



中央支部 (3月22日)



西神戸支部 (3月23日)

中小企業振興部振興チーム

11.17 ~2.21 先代を超える 次世代の経営者を目指して研鑽

後継者塾2022



後継者や事業承継間もない経営者を対象に、事業を引き継ぐ心構えや経営の基礎知識について学ぶ全5回の連続セミナー「後継者塾2022」を開催した。

講師の神戸経営研究所の塔筋幸造氏は、5フォース分析など様々な戦略立案手法を解説。参加者は活発なグループワークを通じて自社事業の再定義や経営計画のブラッシュアップを行った。

最終回には「5年後の自社」をテーマに発表会を行った上で、過去の受講者も交えた交流会を開催した。

中小企業振興部振興チーム

2.28 環境を改善しながら 持続的に成長するビジネスを考える

環境ビジネスセミナー



次世代産業委員会は、脱炭素をチャンスと捉えた地元企業の「攻めの取り組み」を推進するため、環境ビジネスセミナーを開催した。

基調講演では、(一社)バーチャデザイン代表理事の吉高まり氏が、環境ビジネスの必要性とその発想法について講演。「本業とシナジーのあるストーリー作り、地域や他社との連携が重要」と強調した。

続いて、(株)アシックスならびに神戸精化(株)より環境に配慮した取り組み事例を紹介した。

産業部産業・国際チーム

3.7 神戸と青森の ビジネス交流について意見交換

青森県商工会議所連合会ミッション団受け入れ



青森と神戸のビジネスや観光による相互交流を促進するため、青森県商工会議所連合会（会長：倉橋青森商工会議所会頭）が来神し、川崎会頭、吉井副会頭と懇談した。

各地の会頭からそれぞれの産業や観光を紹介後、青森県地域産業課が神戸とのビジネス交流について説明。

川崎会頭は「両地域の交流を活発にし、企業間の連携につなげたい」と述べ、吉井副会頭は「神戸も兵庫県の玄関口としてふさわしい都市基盤を整備していく」とコメント。定期航空路線を活用したビジネス交流について意見交換した。

地域政策部

3.9 今後の中小企業の課題について 意見交換

企業経営委員会



企業経営委員会は、(株)帝国データバンク神戸支店長の川崎達大氏を講師に迎え、「2023年の景気動向を読む」をテーマに講演会を開催した。

川崎氏は、ゼロゼロ融資返済の影響や経営者の意識改革、働き方・人材教育改革などの必要性について説明。また今後の中小企業の課題は①事業承継、②人材活用、③DX推進であると指摘した。

講演後、深刻化する労働力不足を受けて、ダイバーシティ&インクルージョンの推進について意見交換を行った。

中小企業振興部振興チーム

3.7 50歳からの起業や働き方を考える

キャリアデザインセミナー



白秋世代（50～75歳）のキャリア形成やウェルビーイングに関する取り組みを推進する白秋共同研究所と共催で、「企業における50歳からのキャリアデザイン」をテーマにセミナーを開催した。

予防医学研究者の石川善樹氏は、平均寿命と健康寿命の延伸による「人生100年時代」において、「自分の居場所が多い人ほど、生活に対する満足度は高まる」と指摘。「会社内だけでなく、副業や起業など自分の居場所を増やし、ウェルビーイングを実現してほしい」と強調した。

産業部産業・国際チーム

3.13 ショート動画を活用した 集客事例を発表

Tik Tok活用事例紹介セミナー



SNSを活用した集客について学ぶため、動画の活用で認知度の急拡大に成功した須磨区月見山のカフェ「パパパピッピーズ」オーナーの幸内政年氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

幸内氏は、「動画の投稿がすぐ集客につながるわけではない」と指摘。その上で、動画に少しの編集を加えるだけで再生回数が大幅に増加した経験や、中学生の娘さんが100万回再生を実現した動画を実例に、スマホ編集アプリ（Cap Cut）の使い方を紹介した。

西神戸支部